

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501639		
法人名	株式会社 ケア・ハート		
事業所名	グループホーム あかしあ ゆったり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条7丁目8-1		
自己評価作成日	平成24年8月21日	評価結果市町村受理日	平成24年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新施設に移転した事もありハード面では格段に良くなっている。共用部分が広くゆったりしている事からそれぞれ他者に気兼ねすることなく、自己流の過ごし方が出来る。施設周りの花壇では季節の花が咲き乱れ散歩しながら楽しむ事ができる。又ホーム裏に出来ている菜園では野菜が実り毎日収穫や手入れ等で楽しむ事が出来る。施設内全体が明るく建てられており気持ちよく生活できる。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501639&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年9月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地元の人々との交流促進>
 本年4月に同一地域に施設を新築し、移転をすと共に敷地内に地域のニーズに基づいたデイサービスを併設して、グループホーム入居者と地元の人々との交流の場を提供している。また、事業所主催のバーベキューに地域の人々が参加できるように町内会に案内したり、火災や地震、水害等の緊急時に速やかに対応できるように地域との協力体制が構築できるように話し合いが行われている。

<家庭的雰囲気づくり>
 新築した敷地内には、花壇や菜園が作られ町内の人々の憩いの場となっていると共にプランターで花がいたる場所に飾られたり、菜園で茄子やピーマン、キュウリ等の野菜が栽培され、収穫を楽しんだり、食事に新鮮な野菜が提供されるなど食事が楽しみなものになるように支援している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係作りに励み地域の一人として共に生活出来るよう努力しており、理念はスタッフルームに掲げ毎日確認しており日々のケアの基本としている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の基本理念をつくりあげ、カンファレンスや日々のミーティングを通じて話し合い、職員間で共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	移転時に近隣住民に挨拶し事業所を理解していただいたり、町内会長さんと会議などを通じて町内会の一人として交流をしている	移転時に近隣住民の施設見学の実施や公園のゴミ拾い等の町内会の行事参加、事業所主催のバーベキュー行事等の行事開催案内で地元の人々との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方が施設見学にいらして下さった際、どういう方が入居されているのか又在宅で認知症の方をみている方に質問を受ける事もあるがその都度アドバイスや悩みをうかがったりしている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子、事業所の活動報告、町内会の行事などさまざまな報告をしており、意見交換などし、普段のサービスに活かせるよう努力している	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、町内会との連携や事業所の行事年間計画、委員との意見交換が行われ具体的内容について話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括職員とは運営推進会議で意見交換し普段から協力関係を作っている又保健福祉課とは生活保護の方の相談にのっていただいたり連絡調整している3ヶ月に1度の市の会議に参加し連絡などうけている	移転とともに地域のニーズを把握し、デイサービスを併設している。また、市担当者及び包括支援センター職員とは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアでは常に職員全員が意識しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる又毎年高齢者虐待防止に関する講習会に参加し勉強会をひらき日々のケアに活かしている	高齢者虐待防止の研修会参加や指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修会等で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年職員が高齢者虐待防止法についての講習会に参加しており学んだ事を全員で考え虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協と連絡をとり利用できるサービスがないか確認している。利用できるサービスは活用し普段の生活に活かしている。成年後見制度は必要とする入居者様いないことから今は支援していない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はホームの詳細を理解していただけるようわかり易く説明し納得出来るよう支援している		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際、毎月のお便り等でご本人の近況など詳しく説明しておりその都度要望などお聞きし普段のケアや運営に反映させている	家族との「連絡ノート」を活用して、意見や苦情、要望等を言い表せる機会を設けている。また、苦情等の受付箱の設置や市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎日出勤し職員の側にいるため職員はその場で意見、提案を述べる事が出来ている又管理者も普段の職員の意見を聞き代表者に伝えている	職員の資格取得への意欲も高く、法人の支援のもとに精神保健福祉士や社会福祉士、介護支援専門員や介護福祉士等資格を持つ多くの職員が在籍している。また、職員の意見や要望等を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が定期的に個人の評価を実施し実績、勤務状況など把握し代表者に報告しながら各自にあった職場条件を整え生き生きと働けるよう支援している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数力量等を検討しながら各種の研修に参加してもらい学んだことを職員に教えながら自ら率先して毎日のケアに活かしてもらっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議法人内の管理者会議法人内での勉強会外部研修会等でネットワークづくりをし質の向上に活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ今までの本人の生活リズムに沿った暮らしを提供し不安なく生活してもらえるようその都度本人家族の要望等に耳を傾け安心して生活出来るよう支援している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望困っていることにはしっかり耳を傾け職員で話し合いより良いサービスを出せるよう支援しており面会の際には話す機会をもって関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と良く話し合い必要な支援提供している又使えるサービスは少ないが社協なども利用し対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況をみながら家事庭いじりなどを貸していただきながら一緒に暮らしている又わからないことなど教えていただく事も多い		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに預けてしまうと安心されてしまうご家族が多いが何とか電話連絡面会時など話し合える時には時間をもっているどうしても来られないご家族には月に一度お便りにて近況等をお知らせしている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族友人の面会、散歩や庭いじりなど習慣となっていることの継続支援に努めている	近隣公園への散歩や買い物、本屋への訪問や友人・知人の訪問支援、馴染みの美容室への送迎等で馴染みの人や場所の関係が継続できるように取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の性格や他者との関係を把握し穏やかに過ごせるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状が悪化し入院となるケースが多いが契約終了後もご家族の希望により相談や支援を受けている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族の意向を聞き家族と職員で話し合い納得出来るよう支援している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、家族と話し合いながら本人本位に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子ホームに入居してからの生活の状況などをみて話し合い検討している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の活用と職員が把握したことを常に検討し話し合いをしながら支援している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	かかりつけ医看護師家族と本人からの意見情報要望を持ちより毎月カンファレンスにて話し合い検討し作成している	かかりつけ医や法人所属の看護師、家族の意見や要望、職員のアイデアを反映して、現状に即した介護計画を作成している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて状態変化時に対応した介護計画の見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員がケース記録やその他の記録に詳細な個人の情報を記録しており情報を共有しケアに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿うよう支援しているボランティアによる支援なども検討していきたい		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加や近隣散歩することにより近隣住民と接する機会がもてるなど地域で楽しく暮らすことを支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医療機関はあるが本人やご家族が希望し入居前からかかっている病院に通われている場合には対応している	医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの中での情報、職員間で共有している情報などを伝え相談している日々のケアで疑問に思っていることやわからない事など看護師に尋ね適切な診療を受けられるよう支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院できるよう情報を伝え相談できるよう努めている。退院後も継続し相談にのってもらえるよう努めている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人ご家族の意向を尊重しホームで出来ることを伝えている。ターミナル研修に参加したスタッフを中心に医療と介護の両面でサポートしている	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は年1度実施している。その時の入居者様の状況によってカンファレンスで対応など話し合い実践力につなげるようにしている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年3回実施しており職員全員が避難できる方法を身につけているがその他の災害については移転したばかりでもありこれから町内会とも連携していく必要がある	火災通報装置やスプリンクラー、報知器等の設備が設置され、年3回避難訓練の実施や自主点検を毎月実施している。	今後は、地震や水害等の避難経路の確保や避難場所について地域と連携した取り組みを検討しているので、その実践に期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの入居様に対し声かけ関わり方を考えながら対応している	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや希望を職員に訴えてこられる入居者様多いがそうではない方には思いや希望を表しやすい環境づくりをし働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の事を良く把握しその方にあった過ごし方をさせていただいている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みやおしゃれを把握し身だしなみを整えられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や(皮むき、野菜きざみ、盛り付けなど)出来ることを探し、楽しめるよう支援している。本人の状態をみながら後片付けなども一緒に行っている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、菜園で収穫した野菜の調理や食事の下ごしらえ、後片付け等職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の好みや水分量食事を職員全員で把握しておりそれぞれにあった支援をしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科医師と協力しそれぞれの口腔内を把握しその人に応じた支援をしている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を職員全員が把握しておりトイレでの排泄の自立にむけた支援をしている	一人ひとりの力や排泄パターンを職員で共有し、トイレでの排泄や自立へ向けての支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫したり乳製品などで対応している。ラジオ体操や散歩などを行っているが全員が参加出来るような運動も取り入れていきたい		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿った入浴支援を行っている体調がすぐれない時には入浴日の変更を行ったりと心地良く又満足して入浴していただく為の支援を行っている	入浴は、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すれば曜日や時間等が対応可能となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう寝具の清潔保持照明など環境を整え休まれる時間なども個々に合わせ支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報を得、薬の目的内容を理解し服薬の支援をしている症状の変化に関しては迅速に対応し細かく記録している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	めりはりの有る1日と感じて頂けるよう家事への参加、散歩、菜園での野菜収穫など張り有る生活を送れるよう支援している。嗜好品に関しても本人の意向を取り入れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調等を考慮した上で自然を感じて頂けるよう天気の良い日の散歩や年間行事としての動物園見学や地域の運動会などの社会参加を行っている又ご家族との自由な外出、外食など出かけやすい環境作りをしている	一人ひとりのその日の希望や意向に沿って、散歩や買物、円山動物園見物や野外でのバーベキュー行事、公園での花見や家族との外食支援等が行われ、戸外に出かけられるよう努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望に応じて援助をしている。ご家族に理解と協力もいただいている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	切手やはがきの購入ポストへの投函などの支援をしている又ご本人が自ら電話をかけたり受けたり出来るよう支援している		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や光の調節季節の花や飾り物をし四季を感じられるよう配慮している。ゆったりと過ごせるようソファを配置し居心地良く過ごせるよう工夫している	敷地内には、花壇や菜園が作られ、散歩等の楽しみごとになっていたり、共用空間には一人になったり、気の合う仲間同士談笑できるように椅子やソファが用意されて本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの関係を把握し気の合った者同士が楽しく過ごせるよう配慮しておりソファ席へも自由に移動でき読書や新聞を読んだりテレビを観たり好きなように過ごせるよう支援している		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族と相談し使い慣れた家具や物品を持参し入居者様がくつろげるよう配慮している	居室には、仏壇や遺影、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行出来るように必要箇所への手すりの取り付け、迷う事のないよう居室への表札。大きく見やすいトイレへの表示札。1人で開閉出来るよう軽いドア。常に適温が出る洗面所など自立した生活が出来るよう工夫をしている		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災以外の災害に関して移転もあり避難場所、町内会の協力体制など新たになったため、再度の確認連携必要	避難場所、町内会との連携など新たに確認し災害時に慌てない体制作りをする	運営推進会議等で話し合う機会を設け町内会との連携をはかる取り組みをする	1年
2	8	成年後継制度についてなかなか必要性ないことから学ぶ機会をもっていない	職員の勉強会などで学ぶ機会をもつ	職員勉強会として年に1度予定として組み入れる	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501639		
法人名	株式会社 ケア・ハート		
事業所名	グループホーム あかしあ のんびり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条7丁目8-1		
自己評価作成日	平成24年8月21日	評価結果市町村受理日	平成24年9月20日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501639&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年3月に新築した施設への移転を行い、これまで介護場面やその他の業務上不便であった住環境面での課題の改善がなされた。また防火対策として、新たにスプリンクラーの設置や建物構造上の工夫などを施している。また施設の近くには社会保険病院や透析専門の病院などがあり、入居者様方の様々な病状の変化に合わせ、移動などにかかる本人の負担も少なく受診ができるようになった。これらの事を含め、より職員や入居者様方により安心して安全な生活が提供できるようになった。今年10月頃には、敷地内に同法人のデイケア施設も開設予定で、今後各事業所で連携や協力を行い、利用者の方々に対してより幅広いサービスを提供できるものと考えている。地域に密着し開かれたサービスが実現できるようにと町内会への加入、行事への参加、定期的な運営推進会議の開催等を通して近隣住民との交流を大事にしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年9月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は「ゆっくり 笑顔で その人らしく」を基本理念に、日々のケアの中で実践し、ミーティングを通じて話し合いや評価を行い、個々にとってより良いケアが行われるようにと努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設移転後に挨拶回りを行い、その後近隣の方との挨拶を大事にしている。同じ町内での移転と言うのもあり、以前ご近所だった住人の方にも運営推進会議への参加など継続し呼びかけている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者や見学希望者などに向けて、認知症についてより分かりやすく基本的なことから発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、日々の活動内容やサービス状況などについて報告や話し合いを持ち、そこでの意見を参考にその後の活動やサービス内容の検討時に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市グループホーム連絡会へ出席し、市担当者からの連絡事項を確認している。包括支援センターの職員とは日頃から会議への出席や電話連絡等を通して相談や情報交換を行うなど協力している。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの重要性を知り、実践するために指針の作成、定期的な勉強会を通して理解を深め日々のケアの中で取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や事業所内での勉強会等を通して高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持っている。特に見過ごされがちな心理的虐待について、日々職員で話し合いを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度について研修や地域包括支援センターの職員との情報交換の中で学ぶ機会があり、現在個々の必要性に応じて支援できる体制でいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することは書面を用意し説明の上、理解や納得が得られるように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や来訪者等が職員や外部者へ意見や苦情などを言い表せるように施設内に苦情等受付箱の設置、相談窓口案内の提示を行い、運営に反映できるように取り組んでいる。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は日々のミーティング等を通じ聞き、管理者から代表者へまたは直接代表者にと報告できるようになっている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、能力に応じた昇給、賞与を行っている。現在は勉強会などを通してチームケアに力を入れ、目標を持ちお互い助け合い協力して気持ちよく働く事の出来る職場の雰囲気作りに力を入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員一人ひとりのケアの実際と力量を定期的に業務の中に一緒に入る事で把握し、必要な指示やアドバイス、トレーニング等随時行ったり、内外の研修会などを受ける機会を設け、職員育成に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は市区管理者連絡会や包括支援センター主催の会等へ出席、各研修会参加を通して、同業者との交流、意見交換を経て日々のサービスに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に必ず直接本人とも面接を行い、本人の様子や会話の中から、本人のニーズを汲み取る事が出来るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が事業所職員に対し安心して話ができる関係が築けるようにと、初期の段階で家族が抱えてきた不安や苦勞を出来るだけ共感して耳を傾けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用前に十分な情報収集を行った上で検討会議を持ち、他のサービスを含めた必要な支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自発性を促し、本人の出来る事を中心にと支援している。その中で共に喜びを分かち合い、また苦勞に対して助け合えるような関係作りを心がけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子について毎月のお手紙や電話などでお伝えし、家族と一緒に必要な支援の方法などを考えてもらうようにしている。面会や外出時間等の制限を作らず、ゆっくり本人と家族の時間が持てるようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くに行きつけの美容室や買い物をしていたお店があれば、できるだけ利用できるようにと支援している。親戚や友人の面会についても普段から気軽に来て頂ける様に声をかけさせて頂いている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いの居室を行き来したり、おしゃべりしたり、助け合えるような機会を作れるようにと支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用や普段の会話や様子から思いを汲み取り、セルフケアに重点を置きその人らしい生活が送れるようにと努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から直接情報を集めたり、病院や他のサービス事業からも必要であれば情報を提供してもらいセンター方式を使い整理、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式に情報を整理し、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医師や看護師の意見を反映し、カンファレンスを通じてモニタリング、課題検討を行い介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を元に日々のミーティングで話し合い、情報の共有を行い、実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	書類の手続きや病院受診、買い物などは基本本人や家族にお願いしているが、本人や家族状況に応じて代行も行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内での取り組みが主になっており、行事への参加、公園の散歩などを通じて近隣の方との交流をしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を受け、そのかかりつけ医や看護師と協力、連携のもと必要な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察の中での気づきを週に1回の訪問看護の際に看護師に相談し、かかりつけ医の往診やその他の病院受診につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医を相談の上、不必要な入院を避ける事で入院による環境の変化等により認知、身体機能低下の予防に努めている。入院した場合も密に面会を行い、家族や病院関係者との情報交換や相談を行い安心して治療を受け早期に退院できるようにと努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事の範囲についてサービスの開始時に説明を行っている。重度化や終末期に向け本人や家族の要望に柔軟に対応できるようにと研修参加や内外の勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の定期的実施。緊急時のマニュアルを作成し、普段から確認できるようにしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した年1回の消防立会いの訓練と年2回の事業所内での避難訓練の実施を行っている。昨年度には災害に備え必要な水や食料、防災グッズなど常備する事となった。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保のため倫理規定を掲示。マニュアルを作成し日々言葉かけや対応に注意をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に応じて開かれた質問や選択肢を広げるなどして、本人の意思表出や自己決定の機会を持てるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分に合わせて趣味活動への参加や休息ができるようにと心掛け対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の能力に合わせ、洋服や髪飾り等を選んで支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ調理から盛り付け、配膳、後片付けまで一緒に行っている。入居者の中には自分の楽しみや役割として定着している方も多い。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事の形態、栄養や水分摂取の管理を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施、夜間入れ歯の消毒洗浄など本人の能力に応じて支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り排泄での失敗を減らし、トイレで排泄が出来るようにと個々の能力や排泄パターンを把握し、誘導などの支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や散歩や体操などの運動を日々活動の中に取り入れている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる状況で個々の希望やタイミングに合わせて最低でも週に2度は入浴できるようにと支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝について、本人の習慣や体調に合わせて支援している。その時々適切な照明の明るさや室温に配慮するなど、気持ちよく休めるようにと努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日使用している業務ファイルの中で個々に薬のチェックシートや情報シートをはさみ普段から確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や趣味嗜好に合わせて活動を行っている。生活の中に楽しみを持ったり気分転換が出来るようにと季節に合わせた行事などを毎月行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって散歩や買い物などの支援を行っている。普段行けないような場所の場合ご家族に相談し対応してもらっている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じておこずかいの所持や買い物の機会を設け使用する機会を設けている。紛失等のトラブルの可能性も考慮し、基本的には家族に管理して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人の希望で電話を使用できるように支援している。お手紙のやり取りもお手伝いしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の掃除、施設周りの花壇に花や野菜を栽培。季節事に窓や掲示板を装飾。その他テレビや掃除機、食器片付けの際に出る音等に配慮している。毎日小まめに窓を開けるなど換気にも気を使っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にソファや小さめのテーブルを置く事でくつろぎのスペースを確保。他、利用者同士で思い思い過ごせる空間としてお互いの居室を利用している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人やご家族に説明し、使い慣れた家具やアルバムなどの馴染みのあるものを持ってきて頂き利用して頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などには手すりを設置。分かりやすいように戸や物に名前をつけるなどの工夫をしている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	あかしあでは、今年3月に施設の移転を行っており、同じ町内会の範囲内ではあるものの、新たな場所での近所つきあいなどの交流や事業所の活動、認知症に対する理解など地域に周知して頂けるよう努めていきたい。	近隣の方々が気軽にホームに訪ねて来られたり、行事や会議の出席などして頂いたりなど日常的に交流が図れる。事業所の活動や認知症高齢者施設に対する正しい理解が得られる。	町内会行事への積極的に参加し交流を図る。近隣の方への行事や運営推進会議への参加の呼びかけを行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。